



76
1525
1



門ノ邊
時 1525
卷 1-5

第三十八号
舟

一

當世元街談義序

枿堤尔遊んで。書と得ち。

難が他方知る。後

祭然電光眼と射り。神

知。止藏が他方知る。

再^ふ降^りし^て是^を續^ぶ表^白
無^と動^く滑^る秘^る膝^と
も。止^み裁^が言^ハ辞^ハ殘^ニ泥^ニ
が流^をと^と纏^りび。本^ハ無^ク實^ニ
義^も亦^モ静^ニも^も忠^臣
臣

お彰^うを。鳴^け呼^ぶ世^ノ書^久
し^と草^紙群^小居^り
馬^を糞^を乃^チ塵^をけ^がさ^し
も又^モ悲^しも^も余^其
言^の朽^んと憂^へ終^る

牙 割 刷 氏 ようらうの里。
本小上夢とよめたる案

洛陽

孤舟



回春花術被義才一
大罵長歌儘放顛時々一語却超然方法
唯色とをくらと。空即是色と為一
つぎく。毎日入来は好人と侍乳山の傍に。
止藏軒といふ者有り。其生質搖面水て
矩少く。常々一箇乃本流をたして。肉乳鳥
蒼配合此事をいふ。白眼とりて僧は呵
つ。青眼よりて女と男。まりの後と抱く

見りそのの闕とくほる流生の中津子に花
 此真盤なり。境内人かぬ所をかく。止藏が斬も
 大入りめく拍子あしうひてち藤をく。夢休
 勢うんと身振くすうおし。俄の喜ぬ真実を
 ら秘と。是ハくしをむし。花より子は
 聴流に教く。せんさあなれ。今目六宿を後び
 親書に伝記よりある本帳。布子小肩にむけ
 ちる唐子の十徳。唐唐子の要えぬけ。あ。

依違より何何体。いふ後同高奏れ果もも
 片指も傘。信よりあふく。かく。拍りあて
 花よりく。止藏は近。对卒尔か。事。草と
 此知く。その。美。付。程。朱。れ。多。と。慕。ひ。性。理
 此片指もあ。ま。ち。う。う。く。不。事。ゆ。て。浪。れ。者
 ち。あ。り。讀。書。指。直。れ。果。ち。若。松。よ。う。り。ぬ。軍。書
 後。く。あ。く。世。を。送。り。ぬ。これ。は。つ。き。を。流。し。さ
 事。が。く。り。の。心。後。教。り。少。く。不。書。れ。而。も

ござるをばい入るをぬくにつとむるは

心直業丸坊と名むくまは今日ハ華のどり

しつてやうにまはるゝはハ妹札(かどれバ。

止藏もきすうがまはたくれとどれの名物の心華音

いづれ目のぼし。いづれ事ハあるねども。まづ其

えのさひ入るをぬかすハ作しをよ。ぬつこと

とぬくま又ハ心直業丸坊ハあるまづ。心直業丸坊

歎味方。豆ハ格づけでハ思ふやうにぬかれぬ

の魚對うをばぬき親父と。大洲(あづら)

侍りけり

お直業丸坊と名むくまは今日ハ華のどり

しつてやうにまはるゝはハ妹札(かどれバ。

止藏もきすうがまはたくれとどれの名物の心華音

いづれ目のぼし。いづれ事ハあるねども。まづ其

えのさひ入るをぬかすハ作しをよ。ぬつこと

とぬくま又ハ心直業丸坊ハあるまづ。心直業丸坊

歎味方。豆ハ格づけでハ思ふやうにぬかれぬ

此書もあつた。親子兄弟は中々しては仕が
唱へするもその合の中へ入り。言が建議秋乃
事おれ。何となくもさるおとめ。いよ人を
もつて。金く。し。事。あ。ど。人の性若
め。う。つ。ご。あ。大。深。や。し。ぶ。う。あ。事。し
風俗の害よ。せ。ら。し。甚。多。し。そ。う。人。は。建。議。秋。の
何と。い。て。も。空。言。れ。う。と。世。間。人。の。あ。め。ら。る。が
卵の建議秋の身は。と。う。く。さ。り。と。く。迷。惑。も。

が軍書に建議秋も。また。事。實。と。違。う。る。お。は。二
女子体も。あ。る。や。も。喻。と。む。わ。く。忠。考。れ。つ。と
そ。と。そ。建。議。秋。の。導。く。や。す。する。が。今。日。我。が。職。分
か。る。べ。し。風。俗。の。り。し。か。あ。る。を。い。て。お。め。が。風
世。間。の。行。う。し。ま。ん。ぬ。べ。し。其。ま。を。あ。げ。て
いつ。げ。り。去。る。あ。め。し。後。法。と。建。議。秋。の。し。が。
建議秋に大意。安心の極。ハ。む。ら。も。い。は。だ。す。あ
い。ご。め。て。も。建。議。秋。の。り。が。り。十。余。回。向。れ。次。を



昨日ヤリクをて歌討は。毫も獲れ若くは擲ふ此
 うも。お一人よわらぬ。これとも。お一人よ。生かす
 病も。お一人よ。老後。節。此か。人。も。ま。の。體。も。
 お一人。節。操。も。南無阿弥陀佛と。回。此
 功。も。さ。り。も。と。て。入。行。の。也。お。ん。ご。
 た。お。れ。も。宗旨。も。り。つ。の。惡。對。果。ハ。何
 れ。種。も。あ。つ。て。寺院。と。遊。却。せ。し。も。頼。ひ
 敷。多。一。何。と。も。一。何。と。い。つ。も。勤。苦。懲。息

乃言。罪。此。と。聲。格。の。也。あ。え。す。ま。だ。よ。い。い。も
 一。も。一。も。末。ぐ。も。お。常。と。く。後。更。も。ま。も。ま。
 も。お。れ。も。い。つ。海。も。所。人。お。ひ。く。後。者。也。
 身。が。り。こ。も。色。も。骨。も。お。り。も。れ。も。悔。
 あり。也。其。外。儒。者。の。詩。文。は。流。き。て。徳。行
 と。お。ま。り。也。醫。者。の。藥。の。湯。佛。僧。の。お。ま。り。也。
 三。折。の。業。も。ら。く。も。俱。も。大。報。也。も。て。鑛。
 財。も。し。も。も。り。も。也。若。も。れ。の。職。分。も。也。也。

加流は老り。一生は徳の類ひ。ゆきく計あふ
 しく。一く汝が答も何す。く。監禁は責
 辱をば。と。海人。や。白後。大。と。う。う。く。死
 ね。忠臣義士貞女烈婦。其行状。は。當世の
 取ら。れ。喻。と。む。り。く。祝。さ。う。さ。ば。而。以。説。法
 此。光。林。も。ら。う。く。福。壽。ハ。大。悲。ハ。法。合。を。以。
 心。が。女。年。を。とり。て。世。う。う。ら。れ。つ。う。さ。い。あ。あ。
 び。〜〜

止。藏。軒。わ。く。び。海。ぶ。つ。れ。大。声。を。答。う。り。く
 い。く。あ。く。ゆ。と。う。あ。り。つ。れ。お。定。の
 千。二。フ。カ。ン。お。き。も。及。び。の。も。願。う。と。あ。り。よ
 系。原。の。も。も。の。の。は。ゆ。き。く。う。う。
 一。通。う。云。う。ん。折。汝。末。學。の。糟。と。な。め。静
 観。を。柳。等。が。津。陽。を。す。り。く。理。窟。と。こ。の
 とも。才。一。何。の。所。と。あ。る。ん。丈。本。覺。ハ。佛。ハ
 形。を。く。法。性。の。神。ハ。姿。を。く。始。成。の。佛。有

覺れ神ハ。すづく男女支拂れ情と離れのみ
とほ。うして律付より中世まで兄弟
合とく。頼親心と合とて和とて
支ぬせり。中世より及んく案。和とて漫
あるより。異國此れと傳うて。節を用ひ
ありし。げはこれよりかゝりて根本
此和の及と失ふ。律國は生れて大なる和
和の字とされく。一日も立居せんや。よ
七

我今遠くハ二階此遺法とつぎ。迫く
殊にが海と慕く。あがの捷徑と演大和
此根元と知り。物の好くあしん。思
建後教の大業。ちん。海小宗此局見
なんごころを知らし。あしん。びう。世
岩頭大此法と執り。會上れ緒羅漢
龍耳。癒れく。一向國よりぬれありのぞ。今
何れと云や。そも申く。會殿。ゆ

大和

了汝下之此中多と悟る〜むら大業此妙
境。鼻れこれよあ〜りも。知る〜神海
す。知つても様よ〜とまじ
中無改と少の〜。わ〜汝が正信
れを〜と攫〜。心裏地を飾る遊の
〜。あ〜其妙境の事れ不の〜
言得ずん金持頭と胸く打込〜混沌房
〜金精神如奴〜と腕〜し

あ〜す〜ん〜

回言の術活義ありき

